

給食協会だより

令和5年 3月
公益財団法人
四日市市学校給食協会
TEL325-7724 Fax325-7734

一年間の活動を振り返って

平素より、当給食協会の学校給食業務に関して温かいご理解・ご支援をたまわり、ありがとうございます。

去る2月1日(水)の第3回理事会、2月16日(木)の第2回評議員会におきまして、当給食協会の一年間の活動内容等について中間報告をさせていただき、それらに対する貴重なご意見もちょうだいしました。また、次年度(令和5年度)の事業計画案及び予算案に関して、承認を得ることができました。

今回の「給食協会だより」では、今年度の活動を振り返り、主な内容をお伝えします。



第2回 評議員会



第3回 理事会

【安全・安心で良質な学校給食用物資の安定的な供給】

給食の食材については、サンプル検討会、献立委員会、物資選定委員会を経て慎重に決定してまいりました。決定過程においては、質・味・アレルギー・生産地等を考慮に入れながら、安価で安全・安心な食材選定を行ってきました。しかし、大幅に値上がりした食用油をはじめとして、今年度は年間で値上がりした食材が107品目にもものぼり、安価な食材を求めようえでは難しい点がありました。

また、当給食協会では食材の質を維持するために、次のような活動も行ってきました。

(1) 抜き打ちでの青果物検収(5月～12月で7回実施)

調理校の給食室を訪問し、使用する青果物の質・量・価格等を現場で確かめ、日々どのような野菜や果物が納品されているかについて小学校校長会代表・学校教育課指導主事・給食協会2名の計4名で評価してきました。訪問先の学校には当日まで知らせず、抜き打ち的に実施していますが、7回実施した中では、納品されていた青果物に特段の問題は見受けられませんでした。

(2) 納入業者の事務所や工場等への衛生監視の実施

12月に発行した「給食協会だより」でも紹介しましたが、衛生監視委員会を小学校校長会代表1名・学校教育課指導主事1名・栄養教諭代表2名・給食協会2名で組織し、衛生監視を実施しています。今年度も、対象業者を4社選定し、2グループに分かれて衛生監視を行いました。そして、そこでの指摘事項を各業者に伝えるとともに、期間を決めて改善を依頼しました。

(3) 異物混入等事案への対応

今年度も、異物混入をはじめ、青果物の傷み、配送数量や規格の間違い、包装袋の破れ等の様々な事案が発生しました。

そうした事案があった場合、当該校から状況を聞き取り、概要を記したFAXを送信していただきました。その後、早急に納入業者に連絡し、例えば、異物混入であれば、該当の現物を学校に取りに行くとともに、必要に応じて物資の交換等を依頼しました。また、当給食協会において、異物の混入した物資等の現物を確認したうえで、納入業者や製造メーカー等に対し、原因究明と防止対策についての文書報告を求めました。そして、記載内容について業者に確認し、最終的に、当該校へ報告書を提出させていただきました。

【食育推進に向けた支援】

当給食協会では、公益財団法人として「多数の者の利益の増進に寄与する」公益目的事業も実施しています。その事業の1つに、「学校給食研究・研修会等助成事業として、小学校が行う食育推進のための研究会・研修会等の経費の助成（研究助成25校）」があります。

25校の取り組みの中から、ごく一部ですが、取り組みの内容を紹介させていただきます。

《羽津小学校》 テーマ「望ましい食事習慣の定着をめざして～おはし名人になろう！～（2年生）」

＜目的＞家庭でも給食の時間でも、ほぼ毎日はしを使っている子どもたちであるが、間違ったはしの持ち方をしている子や正しい使い方を知らない子が少なくない。そこで、食文化に関心を持たせ、正しいはしの持ち方を身に付けさせることができるよう、「おはし名人になろう！」という題材で取り組みを行った。

＜方法＞はじめに、児童にはしを配り、普段と同じように持たせて、はしを正しく使えているか振り返らせた。その後、正しいはしの持ち方を提示して説明し、はしを正しく持ってどのように動かして使うのかを練習させた。また、はしを使う時のマナーについても説明した。最後に、立方体のスポンジをはしでつまんで移動させるゲームを行わせた。



＜成果＞実際にはしを持たせたことで、これまでの自分の間違ったはしの持ち方に気付き、正しくはしを持って食事をしたいという意欲を高めることができた。また、立方体のスポンジを移動させるゲームは、楽しみながらはしを使う練習になった。さらに、スポンジを持ち帰らせたので、家族ではしの持ち方に関心を持ち、練習を行った児童もいた。

＜課題＞間違ったはしの持ち方を直すことは難しいため、給食の時間など機会をとらえて声掛けをしていく必要がある。また、はしの持ち方の授業を契機にして、日本の伝統的な食文化についてさらに学びを広げていきたいと思う。

《保々小学校》 テーマ「委員会から発信しよう」

給食委員会では、毎月の給食目標とワゴンチェックで気づいたことを各クラスへ伝えに行っている。また、自分たちでワゴンの片づけを楽しみながらきれいに返せるようにスタンプを集める企画を考えたり、残食量が減るように企画を考えたりしている。しかし、給食委員会専用の掲示板を活用できていなかったため、子どもたちと考え、「クイズをポスターにしたい」という提案から、購入した本を活用した。給食委員会の子どもたちは、秋が旬の食材を本から探し、クイズのポスターを作成し、掲示を行った。併せて、献立に注目してもらえるように、献立クイズも作成し、掲示を行った。教室へ購入した本をおすすめの本として、一定期間、置いていつでも見られるようにした。子どもたちは、その日に出る食材について、本で探す姿があった。



このように、クイズのポスターを掲示することで、各クラスへの呼び掛け以外に掲示板を活用した食育推進が期待できる。今後、図書室に購入した本を置くだけでなく、教室に食育の本を置くことで、子どもたちがすぐに手に取れるように整備していきたい。

今回紹介させていただいたように、それぞれの学年・学級、委員会活動等で、工夫された取り組みがたくさん行われました。こうした様々な食育の取り組みを通して、子どもたちの「食」への興味や関心がいっそう深まっていくことと考えます。

最後になりましたが、学校及び市教育委員会、給食用物資納入業者等の関係の皆様方のご理解とご協力により、令和4年度も無事に給食用物資の供給をはじめ年間の事業を終えることができましたことに、厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。